

会 議 要 旨

会議の名称	令和2年度 第3回 八尾市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	令和2年10月14日(水) 午後3時00分開会
開催場所	八尾市水道局4階 大会議室
会長 氏名	花嶋 温子 (大阪産業大学デザイン工学部 准教授)
出席者(委員) 氏名(人数) 敬略称、順不同	鈴木 靖文(立命館大学 非常勤講師) 中浜 多美江(八尾市女性団体連合会 事務局長) 菅 春水(八尾商工会議所 常議員) 西田 裕(八尾市自治振興委員会 会長) 木下 次郎(八尾市地区福祉委員長連絡協議会 副会長) 岩田 志郎(八尾工場地元連絡協議会 会長) 山本 賢(八尾市高齢クラブ連合会 会長) 上田 雅範(連合大阪八尾柏原地区協議会 事務局長) 笠原 征郎(公募市民委員) 齊藤 美奈(公募市民委員) 向井 須子(公募市民委員) 北山 美恵子(公募市民委員) 前田 吉繁(公募市民委員) 計13名
欠席者(委員) 氏名(人数)	吉川 正史(近畿大学法学部 准教授) 石村 雄一(近畿大学経済学部 特任講師) 川本 健太郎(神戸学院大学リハビリテーション学部 准教授) 岡ノ谷 圭二(㈱イトーヨーカ堂八尾店 管理統括マネジャー) 佐原 健(八尾市商店会連合会 理事長) 寺西 幸雄(八尾市小売市場連合会 会長) 計6名
事務局の出席者	八尾市 資源循環課、環境保全課、環境事業課、環境施設課、産業廃棄物指導課 コンサルタント 株式会社グリーンエコ(2名)

発言者	内容
次第1 開会	
次第2 計画改定案（第2回）の見直しについて	
事務局	事務局から資料4「計画改定案（第2回）の見直し」について説明
会長	計画改定案（第2回）の見直しについて何か質問あるいはご意見があれば挙手をお願いします。
A委員	前回もあったように、この「プラスワンで未来へつなぐ」というこのプラスワンってというのが少し見えにくいのではないかということで、「未来につなぐ循環型都市やお」というのをメインテーマとし、下にプラスワンという1つの取り組みを実践してもらい、新しく始めるということかどうか。とても良い案を考えてもらい、古い言い方で産みの苦しみというのもいろいろあったと思うが、プラスワンというのを活かし、サブテーマをこの下でプラスワンアップとか、アクションとかいう部分で下に設けたらいいのではと思っている。
事務局	事務局としてはこの基本理念を掲げているが、基本理念の意味はそれぞれが何か1つ新しいことを始めることを意図し「プラスワン」という言葉を使うことで、その意味合いを大切にしていきたいと考えており、また皆さんに理解してもらえるような言葉にできるように考えていきたい。
B委員	基本方針の一部にパートナーシップの構築とある。ここに、「環境アニメイティッドやお」もパートナーシップの一環に入っているのか。もし入っているならば、現在会員が50人程度しかいないため、もっと活用して連携が図れないかと思うが、その辺りを教えて頂きたい。
事務局	「環境アニメイティッドやお」という形で、市民、事業者、教育関係者、行政のパートナーシップによる協議会組織において地球温暖化対策等の取り組みを行っているところである。
会長	ここは基本方針としてパートナーシップを構築すると記載があるので、色々なところ、もちろん「環境アニメイティッドやお」とのパートナーシップを築ければいいのではと思う。
C委員	基本理念案の、いきなりプラスワンという言葉から始まるのは私も違和感がある。確かに基本理念としては「未来につながる循環型都市やお」としておき、どのような手段でいくかという時にプラスワンという手段があるという形のほうが良いと思う。
D委員	<p>プラスワンにこだわりもあったようだが、私の判断では、プラスワン今までやってきたことに何か新しく自分で見つけてやる、ちょっと拡大してくださいという意味合いかなと思う。具体的な例や考え方はそれぞれの家庭、事業所によって違うと思う。だから、そこにあまりこだわりはない。</p> <p>2ページ目のパートナーシップの構築のごみ減量推進員の連携、活用、これの具体的な中身が見えない。私も減量推進員だが、どのような位置づけで活用しよ</p>

	<p>うとしているのか、我々現場のものとして分からないので連携、活用とか、書き方としてはこれしか方法がないと思うが、中身を知りたい。</p> <p>それから1番最後に家庭用指定袋配付方法の適正化とあるが、どういうことを適正と言うのか見えないので、適正化するのは当然のことであって、具体的なことが見えればいいのかと思う。</p> <p>実は、昨日、自治振興委員会の幹事会でもあったが、自治振興委員会としては八尾市全体の住民を見据えた上で活動をしていこうという議論を今行っているところで、そこではごみ袋をどうしたらいいのかということで、無駄がないようにごみ袋もごみになるため、実費をもらい、要る人が金を出して買う方法が1番適性ではないかという意見が多数出ている。でないと、ごみ袋を配る我々自治振興委員も大変な作業でもあるし、また、届かないところは市役所に取りに行かなければならない。会議が始まる前に主任と話したが、ごみ袋がまた町に溢れて余っていると。これ以上ごみの減量を進められないと言う人と、まだまだできるという人と非常に格差があると思う。意識の高い人がごみ減量推進員をやっていると思うが、そこにごみ袋が十分にあるとどうしても無駄にごみを捨ててしまう。前にも言ったが、プラと紙、可燃物という区別が、なかなかされていないのが現状だと思うので、適正化というところで、文書の書き方、もっと具体的な根拠を出せないかと思っている。</p>
事務局	<p>ごみ減量推進員の活用と指定袋の配付方法の適正化、具体的にどんなことかということだが、まず、ごみ減量推進員の活用というところから答弁する。</p> <p>ごみ減量推進員は確かに650人ほど委嘱しており、連携を取れているとは言い難い現状ではあると思うが、中には委嘱を受けたけれど具体的に何をしたらいいかわからないといった方も結構多くいるのではないかと考える。今、まだプランなので、具体的にはこれからになってくるかと思うが、実際に委嘱を受けなくても積極的に取り組まれているところはいっぱいあるので、そういったところをできるだけ拾い上げて、何らかの形で皆さんにこういうことをやっておみ減らしているとか、幅広く紹介できるような仕組みを作るということを大事に考えていく。ごみ減量推進員についてはこのような感じである。</p> <p>ごみ袋配付方法の適正化ということだが、新しいごみ袋になって4年程経過するが、だんだん各ご家庭に普及してきて、大量に余るところ、それも可燃ごみが余る、プラが余る、資源が余る、様々だと思う。そこについては、まだ研究する余地があると思うが、それぞれの家庭のニーズに応じた配付、余っているところだったら今回は要らないということで、今回は配らないとか、そういった方法ができないか考えているところである。</p>
D委員	<p>ごみ減量推進員を選出する時に十分に説明がないのも原因だと思う。何度かメールをもらい、当てはめてくださいと。もう誰でもいいです、町会長でもいいですよといった説明の仕方しかないので、何をしたらいいのか、いつ呼び出されるのかもわからないのが現状なので、そこをしっかりと認識を持ってもらうようお願いしたい。</p>

	<p>そして、ごみ袋も要らない人には配らないとのことだが、要らないというのはなかなか手を上げてこない。袋は便利なので、どこかで使うから置いておこうと、要らなくなったらごみで捨てようという意識しかない。そのようなこともあるので、その辺の考え方を変えて欲しいと思う。それより少しでも少なく配る方法を考えないと、ごみ減量にはつながらないと思う。</p> <p>1回目の時、ここでお茶を出されて紙コップも先生がこれもごみなので止めましょうとの発言と同様で、原因になるようなものはできるだけ省いていく。住民は、ごみ袋が小さくなった時も何で小さくなったの、入れられへんと言いながらも慣れた。何にも言わなくなってきたというのがある。最初のしつけというか、慣れがごみの減量につながってくると思うので、今しんどいかもしいが、つながりますよという、このプラスワンというものをしっかり出していけばいいと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>家庭用指定袋をどうしていったらいいのかというのは1つ大きな課題かもしれない。</p>
<p>E委員</p>	<p>私も第1回目から来ており、ごみ袋の討論を一緒にしているが、少し気をつけることで、私は容器包装プラスチックをあまり出さない。たくさん買っているが、ちょっとした工夫で本当に少なくなる。分別に容器包装プラスチックができてから、私のところへ取材が来て、市政だよりに載せてもらった。その際にどのような仕方をしているか写真を撮られた。私はグッと凝縮するために大きな袋はそのまま入れないで、包んでおみくじみたいにして入れている。そうすればものすごくかさが低く、月に一度出すか出さないかになる。でも、結構色々なプラは買っているので出る。出るがちょっとした工夫で出す枚量が減るし、私の家では普通のごみ袋よりピンクのほうが余っている。</p> <p>1つ悩んでいる点は、資源物の中のアルミ缶で、水曜日になったら朝早くからおじさんが取りに来る。私はそのおじさんを捕まえて話したことがあるが、おじさんにも生活があり、ここでケンカして、なんとかしてくれというのではなく、でも、この町内で潰さないで自分の家に持ち帰って潰して欲しいと。今度そのような雑音が出るようなことをしたら、ここでは取るなど言ったら、やはり遠慮される。自転車で来ているので、そこで潰しないと、持って帰れる量は決まる。これは八尾市の資源であるし、お金にもなるから、そこのところはもう少し厳しく、言わない町会は本当に音がうるさい。各辻のところで、足で踏んで潰している。昼間働いて晩寝ている人ばかりでなく、夜働いて朝帰ってきてその時間寝ている方もおられると。私、町会長しているので、言ってくれたら私文句言いますが、言ってくれなかったらそのままになる。そういう点も行政がしないと。</p> <p>私も友達がたくさんいて、ごみ減量推進員の友達もたくさんいる。ごみ減量推進員の会議がまた始まるよと言うと、委員の名前を出しているけど、何かわからんと言う方が大半で、ランダムに2000人の方へアンケートすると聞いたが、できればごみ減量推進員の方の意識を聞いてみればいいと思う。せっかく頑張らないとあかんと思って、きっと名簿に名前を出してくれているが、この期間にだ</p>

	<p>らだらとなってしまうている。私はこの場に出ているので、ごみ減量推進員としてこういうふうには動いているということをお話の方に説明はできるが、でも何もしてない人は何もわからない。だから、そういうことがないように、八尾市がそういう委員を集めてプラスのほうに動こうと思ひごみ減量推進員を募集したと思ひ。それが今何の動きもなく、ごみ減量推進員をどのように活かすかということと、それからその方々にアンケートを取ってほしい。一般の方にアンケート取るのと同じように。どういうふうになるかはわからないが、せつなくなってくれている力を活かさないというのは大変不利益だと思ひ。</p>
事務局	<p>意見のあつたごみ減量推進員の意識向上を図るべきであるというの、当然事務局側としても願っている。今、そういう状況になつていないという指摘で、その点深く受け止め今後の施策に活かしていきたい。</p> <p>また、アルミ缶の抜き取りの件は、毎週水曜日に、担当者と警察 OB の職員で、地道ではあるが巡回している。市全域という形になると苦情等も多いため難しいが、苦情のあつた場所を中心に巡回している。実際、取って行く方々に注意することで、収まっていくこともあるという意見もあり、そういう点も合わせてごみ減量推進員の活躍によって可能であれば、こちらとしても広報していくような形でできればと考えている。</p>
F 委員	<p>家庭系ごみの減量・資源化施策の推進というところで、今回新規で食品ロス削減の推進と謳われているが、八尾市として具体的にどのように取り組んでいくのか、聞きたい。</p>
事務局	<p>食品ロスの具体的な取り組みということだが、昨年、国から食品ロスを減らそうということで、自治体にも食品ロスの削減の計画、これは努力義務ではあるが、作成するよう求められている。ここについて、具体的にどこまでどうなるかというのは、今は答えられないが、国、府も具体的に食品ロスを減らすために啓発の面では力を入れて取り組んでいるので、うまく連携を計りながら八尾市でも取り組みを進めたい。</p>
G 委員	<p>初めてなのでわかりにくいところもあるが、このプラスワンを最初に気にされていたが、例えば、ごみ袋の中に入れるごみを少しでも軽くする、そのプラスワンから始めるという意味でも、このプラスワンすごく気に入っている。</p> <p>それから、先ほどから出ている資源物の抜き取りは、うちの町内ではアルミ缶をみんなでステーションに場所を作って集めている。何が原因と言うと音が嫌だから、自分のとこが出したごみに触られるのが嫌だからということを出している。集団回収で業者に買ってもらえとか、それと雑がみの2点を町内ですごい力を入れていると、アルミ缶を取りに来る業者も来ませんし、雑がみも非常に増えている。新聞のない代わりに紙ごみを出すみたいな形で。そしたら音とそういう人達が、ウロウロされるのもなくなって。今朝久しぶりにそういう方に会つて、やめていただきたいとお願いしたんですが、これを今、お世話させていただいている南山本地区なんかでも話すんですが、なかなか他の地域では実行していない。少し集団回収の中のアルミ缶、鉄の缶も可能であればその辺の、例えば</p>

	置いておく場所を提供するとか、置ける入れ物を補助するとか考えてもらえれば、八尾市は水曜日行ってもないと思われることが 1 番早いんじゃないかなと思っている。
事務局	今、意見のあった置くスペースがあれば回収してもらえるとということであれば、例えば今、町会の皆さんへお願いしている集団回収、新聞雑誌、その中には実はアルミ缶も対象になっている。ただアルミ缶はなかなか新聞や雑誌みたいに保管しにくいということもあるので、ボックス的なものを準備させてもらい、それを置く場所があれば、そこに集めて・・・
G 委員	すいません。ボックス的なものと考えたら大事になる。回収の方たちが持つような紙の袋みたいなのでいい。そうすればそこへ入れてもらって、回収後は小さく畳めるので。
事務局	それをする場合は、見張ってもらわないと難しくなるかと思う。
G 委員	今は3町内、3ヶ所くらい家のガレージの中に入れて、ガレージの中にそれも玄関の柵と一緒にもう1個チェーンまで付けて、万が一皆さんの頂き物なので取られないように工夫して。ただ、未だに他の町会は進みませんので、場所がどっかにあればと思う。
事務局	我々一応何度か考えたことがあり、そういう形で集めておけば、その分資源化ができるので、そういったアイデアは研究していきたいと思う。 先ほど委員から食品ロスにどう取り組んでいくかという質問があったかと思うが、まず本市としては、家庭ごみから排出されるごみの中にどれくらいの食品ロスがあるかというのを、今、調査している。これは他の市町村ではまだ何パーセントくらい入っているかを個別で調べているところは少ないと思う。我々3年間のデータを取っており、まずは本市の家庭ごみの中で排出されている可燃ごみの中に、どの程度の食品ロスがあるかというのを現在集計しているので、その結果の中から有効的な施策というのを考えていきたいと、こういう段階である。
F 委員	事業系の食品廃棄物の減量という施策が出ている。大手スーパーや大企業であれば社会的な責任から食品ロス、リサイクルしていて、ごみを減らし循環型社会に寄与していこうと、大きな社会的責任を果たしていると思う。ただ、中小零細事業者はそこら辺まで意識があるともあると思うが、なかなかそこまでいかない。リサイクルすることで余計に費用がかかるのではないかと、ごみ処理も燃やした方が安いのではと思っている事業者もたぶんいると思う。だから、どうやって事業系の食品ロスについて、いろんな食品があると思うが、周知をやっていくのか。 事業系の一般廃棄物の収集運搬業許可制度との整合とかも謳われている。当然、一般廃棄物許可制度、八尾市の事業者も取り組んでいけるようなシステムというのも、将来的に考えてもらいたいというのはある。
D 委員	先ほど事務局から説明があったように、八尾市ではこう考えていますというような答えが我々欲しい。先ほどその前の説明で国が、大阪府に乗っかって行き

	<p>ますという返事ではだめだと私も前をお願いしたと思う。八尾ならではの提案が欲しい。八尾ではこれをやっていますと、よそではやってないけどと、そういうものの成果が見られたら、やっぱりそれに取り組んでいこうというような方向性が見えてくると思う。</p> <p>先ほど、「環境アニメイティッドやお」の話もあったが、パートナーシップで「環境アニメイティッドやお」が色々な提案を持っているはずで、やはりそこを搾り出してもらって、この事業に対してどう協力していったらいいか、どんな提案を持っているか聞き出して欲しいと。私も全く知らない団体ではないので、聞き出すとなかなか答えがないので、「環境アニメイティッドやお」の活動というのは何を目標にしているのか私はわからないので、その辺もごみについて、環境について、いろいろ研究していると思うので、八尾市から予算を出して団体を作って活動してもらっているところなので、こういうところにも「環境アニメイティッドやお」からの案が欲しいと思っている。そしたら八尾らしさが見えてくるかなと思う。</p>
事務局	<p>今、指摘の内容については、担当課の環境保全課と連携を取りながら、どう具体的な取り組みにつなげていくか、今、申し上げにくいですが、連携を図りながら八尾らしさというのを出せるようなところを見出していきたいと考えている。</p>
副会長	<p>家庭ごみの話がかかなり盛り上がるので、事業系の関係で少しお話をさせてもらいたい。入れるかどうかは皆さんの判断というところだが、事業系のごみ削減について、実はかなり重要なところということで、基本方針の3に入っていますが、私も事業者の1人であるという点からすると、なんとなく指導や強制されたりして大変だという気がするが、実は今、世界ではこうしたリサイクルだけではなくて、リユースとかまたシェアしていく、使い回しをしていくとか、ものすごくこれは経済が回るんだということで、循環経済もしくはサーキュラーエコノミーということで、特にヨーロッパを中心にすごく盛り上がっているところがある。ごみを捨てているとそれだけで本当に損だということ、その中にも資源があるはずだし、また使い回しをしていくという、新しい産業が生まれてくるというところもあり、そうしたことで何兆円とか何百兆円とか儲かるのではとかいうようなそんな景気のいいお話になってきているというところがある。</p> <p>事業系ごみというか、事業者という話で、八尾市では特に家庭ごみにも関係するところだが、家庭用品とか作られている中小企業とかもたくさんあるかと思う。色々なもの作られるのはもちろんニーズがあるからかと思うが、これからたぶん使い捨てるものであるとか、それから包装であるとかというのは、だんだん時代遅れになっていく。もう少し新しい皆さんお持ちの水筒の新しい形であるとか、少しでも工夫して作っていくと八尾の町がもっと活性化していくということ。ごみの話ではあるが、そうしたことを取り組むことによって、もっとおもしろい町を作っていく、元気な町を作っていくということにもつながりうるんだということもあるのかなと思う。</p> <p>そんな話、これをしよう、あれをしようということを、ごみの話から直接的に</p>

	<p>言いにくいところはあるが、そんなふうには事業者と話し合いの場をもって元気になっていく。自分達のごみだけではなく、日本全体のごみ、さらに世界のごみを減らしてやろうといった、そんなところに貢献することも八尾は可能なんだと思う。そうしたこともみんな話合えりとか、そうしたことを学んでいくみたいなの、そうしたことがあってもいいのかなと思う。</p>
E委員	<p>私は生協を3つやっている。だから、スーパーに買いに行くことがすごく少ない。スーパーに買いに行くと、ついついこれ安いから買おうというふうになる。その代わりに、生協の中には今の話みたいに瓶をリユースして一手間かけなあかんけど、自分でプラスチックの入れ物へ入れて、大きな瓶は中に入れて、それが空になったら生協に返して、またそれに詰めて返してもらおう。それから牛乳瓶も返却する、もちろんね、中飲んでしまったら。そういうふうな生協さんを選びつつ、ごみは減らすように努力している。</p> <p>いつも言われるんですけど、〇〇さん3つも生協やって、何買っているのって聞かれる。生協でもAの生協ではこれがいい、Bの生協はこれがいい、Cの生協はこれがいいということで、確かに注文書を書くのは大変ですけど、努力せんことにはごみは減らない。スーパーに行って、ついつい買う、安いから買うとこって。それとこの頃スーパー行っても、にんじん1本、きゅうり1本いうのから売っているスーパーもある。袋に入れられると3本いくら、1本使ったら、あとは悪くなる。だから、そういうふうなところを消費者が選ぶのも、1つの知恵やと思う。私は何十年も前から生協を使っていて、そういうふうにするのに慣れてるから、何ともないけど。そういうふう努力するというのを考えて暮らしていただきたいと思う。そういうふうにしていただいたら本当にごみは減る。</p> <p>私も金曜日あたりになると、生ごみ出さないでおこうかなと思う週がある。生ごみ置いておくのが嫌やから、つい出す、こんなにちょっとくらいでも。そういうふうにして袋をできるだけ出さないようにして、葉っぱでも全部1回湯がいて、大根の葉っぱでも1回湯がいて細かく切って、油で炒めて1つ箸休めにこさえるとか、そういうふうな感じにできるだけロスを出さない食べ物の使い方しているので、そういうことをもし進めるとしたら協力させてもらおうので、声かけていただければと思う。</p>
C委員	<p>今の取り組み、文章を読めばだいたいわかるが、基本方針2のごみの少ない、物を大切にするライフスタイルのところ、拡大生産者責任制度（EPR）と書いていますけど、それは一般的にこういう書き方をしてあって、皆さんはわかるのかなという気がする。他の文章はだいたい中身がわかるのですが。</p>
事務局	<p>この拡大生産者責任制度（EPR）ということですが、これは現行計画の60ページで触れているが、基本的には物を生産する事業者に向けて、作る場所から最終処分するまでを責任を持ってもらい、不要になったものについては会社の中で回収し処理をするルートを作ってもらおう。そういったところを確立ということで、ここに書かせていただいている。</p>
事務局	<p>補足として、その部分が非常にわかりにくいということなので、その辺り</p>

	やすい形に次期計画でさせていただく。
A委員	<p>それに関連して、是非ともわかりやすく書いてほしい。これが本当に原点の原点だと思う。企業、事業者がものづくりの段階で、副会長の意見みたいに設計の段階でごみにならないものを作るというのを考えて欲しいと思う。製品になる前のものづくりの段階を考えるということが1番の原点だと思う。</p> <p>例えば紙だと、消費者は値段が高かったりするとバージンパルプの製品を買ってしまいがちになり、リサイクルしているような牛乳パックで作っている、値段の高いものを消費者はなかなか買おうとはしない。しかし、そういった時代ではもうないので、消費者もそういったもので、生産と言うか、そういう商品を買わないといけない時代になるのではないかなと思う。</p> <p>SDGs の中にも 12 番にうたっている、作る責任、使う責任ということが、最も大事な時期になってきているのではないかなと思う。リユースは、3R の中でも大事なことだと思うので、是非ともこれは継続して事業者企業が努力してもらいたいと思う。</p>
次第3 計画素案（前半）について	
事務局	事務局から「計画素案（前半）」について説明
H委員	まず、14 ページに 5.ごみの組成とあるが、ここで、紙と厨芥類が合わせて 70% があると。次に紙類、食品ロス等のリサイクル可能なものがそれぞれ 20% があると、この文言の中で 1 段目に「その内」と入れられたらどうか、「その内、紙類、食品ロスがそれぞれ 20%」と、そういう意味でいいか。
事務局	委員の発言の通り、こちら文章、分かりやすいように改めて、誤解のないよう表記する。
H委員	その次の 15 ページ。先ほども出てきたが、食品ロスで下の写真で手付かずの食品ロス、これはごみ袋の中に入っていたのか。この食品ロスをリサイクル可能にするにはどのようにするのか。14 ページに紙類、食品ロスのリサイクル可能なものが 20% があると。一旦ごみ袋に入っているものを元に利用するとはどのようにしたらいいのか。
事務局	手付かずの食品という点だが、この写真は実際に、去年 12 月の組成分析調査で出たもので、可燃袋で言うと 100 袋ほどサンプルで取っており、各家庭で出た期限が切れたものであったり、食べ残しだったり、そういったものを集めて撮った写真となる。これを減らすということで、出たもの、これは開けているのでこんな感じになるが、本来はこのまま焼却工場へ行き、中身を確認されることなく焼却されることがほとんどである。まず、そもそも期限が切れる前に食べてしまふとか、この写真自体のようにまず手付かずの食品がごみで出ないように取り組むことが大切だと思う。
H委員	<p>すでに出たものをリサイクルはできないと、そのように解釈した。</p> <p>それと、この食品ロスを少なくすると前回から何年か前も話題になったと思うが、スーパー等で量売りというのがある。そのようなことは可能なのか。例えばマイボトルやマイバッグを持って行って量売りで、私が小さい時はみんな量</p>

	<p>売りで、店や商品みんな量売りだったのです。今、そういう時代ではないと思うが、そういうのはできるのか。食品ロスを少なくするという意味で。</p>
事務局	<p>組成分析の手付かずの食品ということで、先ほど説明したが、まず消費者、ごみを出す市民側が気をつけるべきことは、必要以上に買いすぎてしまうとごみとして出てしまうということだと思う。</p> <p>指摘があったように、スーパー等で量売りという観点、先ほどもありましたが、野菜とかパック売りではなくて1本ずつ買うことができるスーパーもあるということで、私も買い物へ行きますが確かにある。トマト1個で売っていたりする。5個を1つのパックにされているものを買うと、1人の世帯だったら消費ができない。要は腐らせてしまって、ごみになるというのが食品ロスになる訳ですから。その辺、消費者が買われる時に何が必要なのか、どれだけの家族でどれだけの消費をするのかというのを考えてもらい、購入いただく形になるのかなと。行政側としてはその部分を市民の皆さんに啓発していくという形になると思う。</p>
H委員	<p>18ページの現計画の達成状況だが、家庭ごみは実績として減っているが、事業系ごみは逆に増えている。この事業系のごみが増えるということは日本経済が非常に活発化した場合に事業系が増えていくと思う。この家庭ごみが減って、事業系が増える、この現象をどう解釈したらいいのか。</p> <p>もう1つ、この計画改定に向けての方針で、現計画の目標値と書いているが、役所側は非常に能動的に表現されている。ごみを出すのは我々一般市民なんです、市民が能動的な行動をする、で、役所が集めるほうは受動的な行動をするということで、ここに現行の目標と書いて、実績はもちろん実績なんだが、例えば見込み値とかそういうのはできないのか。文章化する場合に目標値というのは妥当なのか。例えば総処理量、平成27年には69,000tであった量が令和2年に64,000tにという計画を立てている。ところが令和2年には73,000tあり、計画は達成されてないと、どう言いますか、目標値という言葉が問題ではないか。</p>
事務局	<p>分けてお答えする。まず、事業系ごみが増えている点は、いろいろな事情があるが、八尾市の場合、特に家庭系のごみというのは無料で指定袋を配付しているという部分があるので、中小規模の事業所が家庭系の袋を使ってごみを出しているというケースも実際にある。ただ、そういったルール違反をしているところがあれば、職員が地道に事業所へ指導し、正しい方法で出してもらおうと。そういった指導の積み重ねも、事業所のごみが増えている理由の一つである。あと、剪定枝とって、木の枝とか葉っぱとかそういったものが、過去に適正処分されていないところがあったので、そういったところを是正して、2年ほど前から、市で受け入れて処分するようになってきているということで、適正処分によってこのところは増えたということで、事業系ごみが増えている部分については以上の点となる。</p>
事務局	<p>続いて目標値のことだが、計画というものになるので、まずどれだけの数値を目指すかというのは行政としては出さないといけない部分になる。この値を現</p>

	<p>状に合わせて計画期間の中でどれだけ減らしていくのかということで、目標値を確定していく形になる。</p> <p>現計画の達成状況の中で、実際、目標値の達成ができていないところもあり、その部分は真摯に受け止めているが、計画を作成した10年前の部分になると、工場は今、一部事務組合ということで、大阪市と松原市、守口市、八尾市の4市が共同で運営している訳だが、以前に大阪市から八尾市単独で工場運営をというような話があった中でいろいろな状況の中、本市単独で工場を運営しないといけないならば、ごみ量をかなり減らさないと運営できないということで、かなり目標数値を厳しい目にしたということで、指定袋の見直し等もさせていただきながら減量を図ってきたところであるが、現実として目標数値に達しないというところは真摯に受け止めているところである。</p>
B委員	<p>時間がないということだが、一言だけ、冒頭言わせていただいた「環境アニメイティッドやお」だが、これをもっと周知して拡大していくことをこの基本計画に入れることができないのか。ここは、役所と、産業、それと大学と一体になって取り組んでいる素晴らしい組織だと思う。だけど計画にも全然出てこないし、会員数も少ない。個人会員が71名、事業者は30しかない。八尾の産業クラブの内30しか入っていない。教育機関、大学、経済法科大学で講師もやってきましたし、産業クラブの会長もやってきた、両方の立場で見てきたが、あまりにも少ないと思う。1回フェスティバルをやれば、1万2千人来ている。それから大学でもやる。法科大学でも展示会をやらせてもらって、それだけ集まりながら、会員がわずか100名に満たないというのは周知が足りないんじゃないかと思うので、そういう周知活動も計画に入れてほしい。</p>
事務局	<p>確かに指摘の団体について我々も承知しており、非常に環境にとって色々な活動をしてもらっている団体と認識している。ただ、市の計画ということになるので、書き方を検討させてもらい、特定の団体名だけ書くというのは他の団体もあるということもあるので、そういう整合性を保ちながら、記載方法については検討させていただく。きっちりとパートナーシップを取って行くと明確に打ち出しながら、市内の環境の活動を実施してもらっている団体との連携が図れる形がイメージできるように記載方法を考えたい。</p>
事務局	<p>環境保全課ですが、「環境アニメイティッドやお」という形で、補足の説明をさせていただく。「環境アニメイティッドやお」という形で、市民と事業者、教育関係者、行政のパートナーシップによる協議会組織で、平成16年に設立をしている。この4者が共同した中で、いきいき八尾環境フェスティバルとか、市民環境講座なんかを通じて啓発活動、様々な市民活動の連携を図った中で八尾市環境総合計画の推進を図っていく取り組みをしている。</p>
D委員	<p>「環境アニメイティッドやお」のことが非常によく出ているのでお互いに答弁が右往左往しているような、もっと本音を出してもらったほうがいいんじゃないか。平成16年から「環境アニメイティッドやお」は活動されて、非常に立派な活動だと思う。それが果たして行政がどう見ているのかということ、我々</p>

	<p>は知りたい訳で、でない、「環境アニメイティッドやお」の人もこれで良いと思ってしまえばそこからの成長はない。行政はどう指導していくのかというところが非常に大事で、やはり、「環境アニメイティッドやお」だけじゃなく、みせるば八尾もそうですし、このままでいいのかどうかははっきりと答弁の中に出てこない、我々は議論しないで入り口だけで終わってしまうと思う。だから、先ほどあったように参加者が少ない、協力者が少ないということになる。なぜ少ないのかという点が検討されてないので、ただ人数が少ないとか、会員が少ないの問題ではない。なぜ少ないのか、魅力がないから。そこの仲間に入って魅力がないから少ない。だからそれを成長していける立派な団体で、よくやっているという答えだけでは我々には伝わらない。だからその辺をはっきりしないと、何で少ないのかという疑問だけ残ってしまう。行政としてはこういう団体を育てて欲しいということが見えないと、我々がここで議論することは何もない。</p>
F委員	<p>先ほど、事業系ごみが何で増えているのかという話があったと思うが、事務局から植木屋さん、剪定屋さんの剪定が増えたと。ここに19ページに食品ロス、プラスチックごみの削減をしようという話だが、そういうふうに剪定が増えてきたということは、将来的にはその部分についてもリサイクルしようとか、ごみが増えてきているのであれば、その部分をリサイクルしようとか、そういう考えがあるのか。</p>
事務局	<p>剪定枝のリサイクルという話だが、現状、一般ごみとして焼却工場で焼却処分しているところだが、事務局としては、そういったものをリサイクルし、燃料として使えるような形のものを行っている企業もある。まだ事業フレームとして固まってる訳でない中で、リサイクルできるような方策を探っているところであり、今後こういう形で検討していきたいとは考えている。</p>
D委員	<p>事業者ごみ、今、剪定枝のごみが増えていると。それももちろんあるかもしれないが、家庭ごみが事業所ごみに移っているだけで、買い物上手になっている消費者が、ごみになるようなものは事業所へ置いていく、販売しているところに置いて帰るとするのは非常に見える。レジが終わればそこへ自分のパックに詰めてごみをそこへ置いておくと、その事業所のごみが増えて困ると、これが現実。そこがプラスチックごみであろうと、何であろうと事業所ごみになってしまうから、焼却場に行ってしまうと。もちろん食材が入ったものですから、汚れた物ですから、水で流したらいいものでもないから、リサイクルに回らない。それは家庭ごみが事業者に戻ってきたということで、これを入れた総重量を目標としないと見間違ふのかなと思う。</p> <p>事業所は剪定とリサイクル用と分けてないと思いますね。私、前も言ったように、八尾市の市庁舎の中でもプラごみと紙、可燃とは一緒に分けてないでしょと、これも事業所ごみ。だから、これも1つの責任でもあるのかなと思うので、総重量がどうなのかということが一番大きなところで、家庭系ごみが減ったからといってみんな利口なんですよね、全体量と言うのはなかなか減ってこないのが現実、ここが一番見据えないといけない点ではないかと思う。</p>

A委員	<p>ちょっと視点が変わってすみません。私は消費者を代表として話をするが、食品ロスというのは日々の生活の中で子どもたちと一緒に努力をしている。私の年代くらいになると賞味期限を少し過ぎても食べられると書いていても、子どもたちは捨ててしまう。そういった部分では少し炒めたらそれは食べられるのちがうのかなという部分もあるので、日々子どもたちとそういった部分で教え合いというか、そういうことをしながら生活をしている。</p> <p>この基本理念に未来へつなぐってということを書くのであれば、今後、未来という子どもたちのことを視点においてもいいのではないかなと思う。一般廃棄物処理基本計画のこの中身の中で、教えていただければと思う。子どもたちの環境の教育っていうのも基本計画の中へ入れるということは違うのでしょうか。食品ロスとか家庭用のごみっていうのは子どもの時からそういった環境、教育をして、その子らが大人になったり、ひとり立ちしたり、1人で生活した中、八尾市でこういう事を小学校の時に先生に教えてもらったなという部分が多々あると思うんですが、この基本計画の中にはそういう教育の関係、子どもたちのそういった関係は違いますか。</p>
事務局	<p>ご意見の通り未来へつなぐということと言うと、子どもたちが今後生きていく上でごみについてどう考えるか、そういった機会をたくさんもってもらうということが非常に大切なことだと考える。</p> <p>資料4に戻るが、5ページの中で、家庭系ごみの減量施策の推進の中に環境教育の点について触れているところはある。ただ、ここに限らず他のところでも、基本的に未来を担っていく子どもたちへつなぐというのはすごく大切なことだと思うので、その要素というのは計画に盛り込みたい。</p>
E委員	<p>分別方法は、指定ごみ袋の中に入っている。でも、私がいつも思うのが、この食品ロスっていうのは、安いから買っておこうかというのが多い。その時に食品ロスというのを出さないようにするには、捨てていないですかということを入尾市から訴えかける文章が入っているかどうか。そういうことをこれでもか、これでもかというふうに入れたら、新しいごみ袋が入ってきてそれを開けた時に、目立つと意識する。それをしないで分別の部分でこれに何袋、これに何袋だけだったらみんな意識なしに、このコロナ禍で安いのを買う、ついついもう買いに行けないと困るからと、買いすぎる。上へ上へと積んでいくから、ロスが出てくる。だから、ロスはないか。というふうに市民に訴えかけるということを取り組んでいるかどうか聞きたい。</p>
事務局	<p>委員が指摘の食品ロスの啓発は、まさにちょうど今、その準備を進めており来年2月から3月にかけて配る基本セットの中に、食品ロスについて触れさせてもらったものを封入しようと予定している。</p> <p>食品ロスだけでなくプラごみや他のことについても、市からお知らせしたいこと、訴えたいことというのは、袋の本体にもマイボトル、エコバッグを使いましょうという文章を記載し、何らかの形で皆さんの目に行き届くように工夫していきたい。</p>

A委員	<p>それに関連して、日本は「もったいない」っていう言葉の発祥の地ですね。だから先ほど委員からもあったように、八尾独自の何か言葉を、もったいないではなくて。今八尾市では、ごみ袋を回収してなかったら、「あきまへん」とシールが貼ってある。ああいうのとか、すごくインパクトがあってドキッとして直さないとあかん、この日違うねんなど言うのがわかると思うので、だから、ちょっとひと工夫したら市民の意識が変わると思うんですが。</p>
D委員	<p>非常にユニークな返事返ってきたんですが、八尾市の今のキャッチコピーは、「ちょうどええやん！」ですよ。何がちょうどええんやと、どこを思ってちょうどええやんと言うてるのか、なんかぬるま湯に浸かって満足しているという八尾市。これだけ環境の問題で苦勞してはるのに、ちょうどええやんはないやろと思いつつ見ている。ちょうど今委員がそういう意見を出したのでこれはおもしろいなと思って。</p> <p>ポスター1つでも、何かインパクトのあるものを出さないと。八尾ってこんなポスターあがっているで、全国発信できるようなものがあれば、八尾って取り組んでいるの本気やでというのを。ごみ減量が進んできたら、ごみ減量何%下がってきましたみたいな、出したらいいと思う。いいとこだけ。悪いとこ出さんでよろしいから。これだけ減ってきましたって、そしたら何してんねんやろ八尾は、どんなこと取り組んでいるんやろうということで、イメージ良く持ってもらったほうが私はいいかなと思う。</p> <p>そんなところで、ごみというのが何をごみというのか。リサイクルもごみですよというのを、リサイクルはごみじゃないと思っている市民が多いと思う。リサイクルできるから、ごみやから有効に使ってリサイクルしようとしている、お金かけてでも使おうとしている。リサイクルはごみじゃないと思っている市民が多いので、そこはしっかりと訴えたほうがいいのかなと思う。</p>
G委員	<p>先ほどの話に戻ってしまうが、剪定のごみを減らしたというなら、公園の清掃から出る葉っぱのごみを公園の中で処理できる方法なんかをみどり課と相談してやっていただけないかなと。ビニール袋を回収されるのはあまり感じのいいものではないので、それも合わせてお願いしたい。</p> <p>それともう1点聞きたいが、子どもが八尾市から大阪市に移って、分別がすごく少ないと聞いているが、大阪市は106グラムほど八尾市より少ない。この理由は何か。</p>
事務局	<p>委員の今の質問だが、これが全てとは限らないとは思いますが、大阪市がこれだけ平均を下げている理由は、大阪市はごみの出し方でカウントの方法が八尾市と違うため、家庭から排出されるごみの数値で誤差が生じている可能性がある、そういったケースがあるということを知っている。ただそれが全体のどれだけの量を占めているかは答えられないが、そういったケースがあつてこのような数値を出しているということも1つ考えられる。</p>
I委員	<p>今の説明の中に事業者ごみというのがありますが、これ事業者ごみというのはトラック1台持ってそれで営業やっている方のことを言っていますか。商店</p>

	とか工場とかその辺りから回収したものは有料回収ですか。八尾市はそのごみを有料で受け取っているのか、その辺りを聞きたい。
事務局	有料です。本市の場合は許可業者、現在 28 業者に許可しており、その許可業者が搬入したごみ量に応じて、徴収させていただいています。
I 委員	能力は十分あるのか。処理能力は。
事務局	はい。焼却工場の稼働率というのは毎年、能力的には十分ある。
I 委員	その能力がある範疇で、有料で処理をするということは利益につながっているということか。
事務局	本市の利益には直接つながってない。焼却費用にかかった分を処理費用としていただいている。
J 委員	<p>いろいろと勉強させていただいているが、実は「環境アニメイティッドやお」の創始者で、アニメイティッドというネーミングも実は私が付けたネームで、ざっと 18 年ぐらいになるが、初代の理事長をやってきた。10 年くらい前からはその後でグランドワーク、グランドワークというのは環境の全般的なことを考えてやっていこうという団体で、それには例えば KES の普及をやるとか、KES をご存知ないかもしれませんが。いろんな企業でいろんな環境のスタンダードをやっていこうということに対して、いろいろとしていくというふうなことなんです。ISO に代わる非常に安くうまくやっていこうという組織で、実はアニメイティッドの前に当初は事業系の人達が集まってそれで始めた、それが大きな組織になって、やっていこうということで、環境教育であり、あるいは希少生物の保護であり、それから例えば天ぷら油の回収をして石鹼化するとか、再利用していくとか、そういうことを啓蒙、啓発していくことをやってきた。あるいは町のツーリズム、これをちょっとでもやっていこうとか、かなり多義にわたってやってきた団体になる。</p> <p>先ほど、委員のみなさんから厳しい指摘が出たんですが、要するにメンバーが足りないということで、確かに産業クラブの中で有志の方達、関心の強い人達が今、中心になってやってきてるので、先ほど話があったように、ごみの問題で、減量委員等がかなり大勢の方がいるということも踏まえて、もっとこの問題に対して啓蒙、啓発していく、そういうテーマを次の理事長、もう 10 年くらい経済法科大学の先生に移っているのですが、その人にも伝えておきますので、皆さんもアニメイティッドに大いに関心を寄せていただき、そしてこういう点を踏まえてやったらどうかということで会員も紹介いただき、門戸は開いていますので、一般の市民の会員というのもあるので、是非そういうふうなところも今後皆さんにご検討いただき、充実した「環境アニメイティッドやお」に育てていかないかなと。私は初代やってきた人間ですので、そういうふうな形で発言もしておきたいと思うので、今後ともひとつよろしくお願いをしたいというふうに思う。</p> <p>先ほど触れたが、KES の問題ですけど、これも今 40 社が加入をして活動している。これを実は 100 社ぐらいに増やしたい。ISO というのはアメリカが発</p>

	<p>祥で、更新やなんやで金がすごく高い。こういうふうなものをアメリカへ持って行くのではなくて、京都から発生した団体ですけど、それが中心になって ISO に代わるそういうものを作ったということで、今、大いに頑張っておるところなんですけど、ちょうど 10 周年をこの間迎えた。大いに頑張っておいて ISO に代わるそういうものを作ってほしいということ、やっつけてほしいと思っています。</p> <p>皆さんのいろんな発言をつぶさに聞かせてもらって、勉強をさせていただいて非常にありがたいと思っておるし、これを踏まえて、会議所から派遣させていただいているのですが、会議所にも持ち帰って是非その辺を大いに啓蒙しておきたいというふうに思う。今後ともひとつよろしく、いろいろな面をお願いしたいと思う。</p>
D委員	<p>今、委員のお言葉通り、「環境アニメイティッドやお」が立ち上がった時は非常に意識が高かった。それが 2 代目、3 代目、4 代目に継ごうとしているんですけど、こういうことが環境保全のほうから「環境アニメイティッドやお」はこういうことを目指している団体ということが見えたら、理解ができるけど、今の「環境アニメイティッドやお」の姿だけ見たら、それが見えない。イベントーにしか見えないので。だから、彼らたちも非常に苦労している。担い手がない。次のお手伝いする人がない。だから言われるように、会員が少ないもっと入れというようになってしまいうんですけど。やはり、みんな無理矢理入れてしまうと、委員の言われる意識の高い人だけが集まって拡大をしていきたいというところから少し離れてきていると思う。だから、その辺の本音を聞かせて欲しいということで、委員がおられるので事務局も遠慮しているのかもわからないが、最初の創立者の言葉をこうして聞かせてもらえれば、なるほど、そういう目的を持っているとわかると思う。私はそういう言葉が欲しかった。今、ちょっと目的が変わってきているのかなと思ったので、厳しいこと言わせてもらった。</p>
会長	<p>他にないか。なければ、私 3 点ほど注文をさせてもらいたい。</p> <p>9 ページでごみ処理の現状というところがあるんですけど、こちらに八尾市の袋を配付して、袋をわかりやすくして収集をしているというようなこと、それから先ほど無料配付が問題みたいな話もありましたが、現状についてやっぱり袋を配付して収集をしているというような記述が必要かと思う。</p> <p>それと、次の 10、11 ページで、特に 11 ページのところに処理施設について、最終的に焼却したものが行っているのはこの大阪湾にある大阪湾広域臨海環境整備センターの埋立処分場なので、その点について少し 11 ページにも言及していただければと思う。今のままでは八尾市内の最終処分場に焼却灰が行っているのかなというふうに誤解を与えるのではないかなと思う。</p> <p>それと 3 点目が、18 ページにあるように前回の計画では目標は達成できなかったということで、だとしたら 19 ページの新しい計画策定に向けての方針の最初には、やはり前回の計画が目標達成できなかったので、ちゃんと PCDA を回して途中で進行管理をするというようなことが前回は踏まえての 1 番最初に来るのではないかなと思う。という 3 点。</p>

事務局	<p>会長ご指摘の、まず、袋について、どういう状況でやってるいかという図示するような形で今指摘の点を、9ページにその部分について分かりやすいような形で表記はしたいと。</p> <p>合わせて、10、11ページの最終処分に関わる部分は、フェニックスの部分については焼却施設、中間処理施設の1番と2番の間くらいで注釈を設けて、フェニックスに回るというところを表記したいと。</p> <p>最後に目標値、先ほども指摘があったんですけど、達成してない点についてPCDAについて回したらどうだという話。6ページにもあるんですが、今現状この計画策定に関する部分で審議会を開いており、当然、進行管理っていう部分については、事務局中心に審議会委員として2年間委嘱させていただいており、ここもお金の問題があるが、事務局としては計画を管理していく上で、できれば年に1回程度こちらの進捗状況を示しし、それについての意見をもらうというような形で会を開催できればと思っており、ただ、この部分については財政措置も伴うため、今断言することはできない。事務局の思いとしてはそういう思いを持っている。</p>
副会長	<p>最後に1点だけ。5ページの市民、事業者、行政の役割ですが、先ほどから皆様方のパートナーシップであるとか、生ごみでもそれから容器包装でも、利用者と市民と協力してやらないといけないっていう話が非常にたくさん意見が出てきたと思う。ところが、5ページで書いてあることは、市民は市民のごみを出したらいい、事業者は事業者のごみを出したらいいっていう、非常に分断されているような表現になってしまっていて、これであれば前回の計画のほうが遥かに良かったものなので、事務局でもう1回その点、皆さんの意見を尊重する形で見直しできないか。</p>
事務局	<p>副会長からの指摘ですが、役割の部分につきまして、今、各委員からの指摘の部分について、パートナーシップの部分、やはり連携してやっていかないといけない部分があるところでは認識している。その部分について、この役割の部分で追記させていただきながら調整していきたい。</p> <p>こちら、今、素案の前半部分を協議したが、また次回、後半部分を協議する中で、全体案を示していく形になるので、今日、指摘の部分について、訂正追記等を行い、提示していく。</p>
D委員	<p>11ページの焼却場施設が八尾工場と書かれているが、大阪広域環境施設組合は、今4市で使っているのここを明記したほうがわかりやすいのではないかな。八尾だけの工場じゃないということで、大阪市からも松原市も入っているのかな。4ヶ所、そこ明記したほうがわかりやすいのかなと思う。</p>
事務局	<p>大阪広域環境施設組合の構成市を追記するような形で括弧書き等で表記したいと思う。</p>
次第4 その他	
事務局	<p>事務局から報告を1点行う。前回の審議会において、協議した市民アンケートについては、机上に配布の通り9月25日前後に、アンケート発送し、次回11</p>

	<p>月 2 日の審議会において、速報値を提示する予定となっている。</p> <p>また、次回第 4 回目の日程が、11 月 2 日月曜日午後 2 時から今度は市役所の本庁の 8 階、第 2 委員会室で開催を予定している。</p>
会長	<p>今の件についてご質問等はないか。</p> <p>それでは、八尾市廃棄物減量等推進審議会を終了とする。</p>